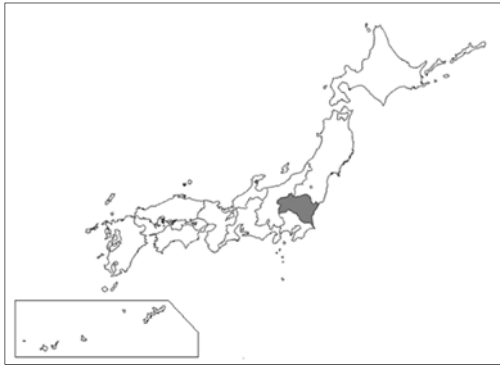


### (3) 北 関 東



北関東地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (    は上方に変更、    は下方に変更)。

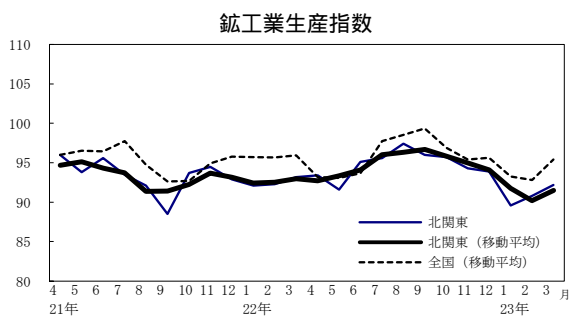
#### 前回からの主要変更点

	前回 (令和5年3月)	今回 (令和5年5月)	
景況判断	一部に弱さがみられるものの、 <u>緩やかに持ち直している</u>	<u>緩やかに回復している</u>	
鉱工業生産	持ち直しの動きに足踏みがみられる	持ち直しの動きがみられる	
個人消費	<u>緩やかに持ち直している</u>	持ち直している	

#### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

1-3月期の鉱工業生産は、前期比4.0%減となった。月別にみると、1月は「輸送機械」が減少したこと等により前月比4.6%減、2月は「汎・生産・業務用機械」が増加したこと等により同1.3%増、3月は「輸送機械」が増加したこと等により同1.5%増となった。



- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。北関東の最新月は速報値。  
 2. 全国及び北関東の太線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。  
 3. 北関東は内閣府にて算出。

#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10-12 月期	1-3 月期	1月	2月	3月
石油・石炭、化学、プラスチック	20.1	▲1.2	▲1.7	▲0.2	0.2	▲0.9
輸送機械	18.3	4.1	▲8.1	▲8.9	▲1.6	7.7
汎・生産・業務用機械	17.1	▲6.9	▲3.3	▲6.2	5.3	3.3
食料品・たばこ	12.1	▲0.4	—	▲5.4	1.6	—
電子デバイス、電気・情報通信	11.2	▲1.5	▲6.9	▲5.2	▲0.6	▲2.3
鉱工業	100	▲1.8	▲4.0	▲4.6	1.3	1.5

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
 2. 1-3月期、3月は速報値。速報値において、化学は医薬品を除いたもの、食料品・たばこは公表されていない。  
 3. 業種は内閣府にて分類。

## 2. 個人消費の動向

個人消費は持ち直している。

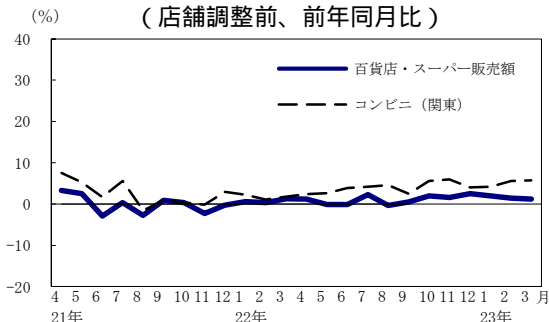
### (1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1-3月期は前期比 1.0%増となった。月別にみると、1月は前月比 0.2%減、2月は同 1.6%増、3月は同 0.7%減となった。

### (2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、1-3月期は前年同期比 1.5%増となった。月別にみると、1月は前年同月比 2.0%増、2月は同 1.4%増、3月は同 1.2%増となった。

百貨店・スーパー販売額等  
(店舗調整前、前年同月比)



	2023年1-3月	2023年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	1.0	▲0.2	1.6	▲0.7
百貨店・スーパー(*2)	1.5	2.0	1.4	1.2
コンビニ(*3)	5.2	4.2	5.6	5.7
乗用車(*4)	17.1	15.6	23.4	13.7
(季節調整値) (*4)	5.0	8.3	1.5	▲4.6

(備考) 1. 季節調整前前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

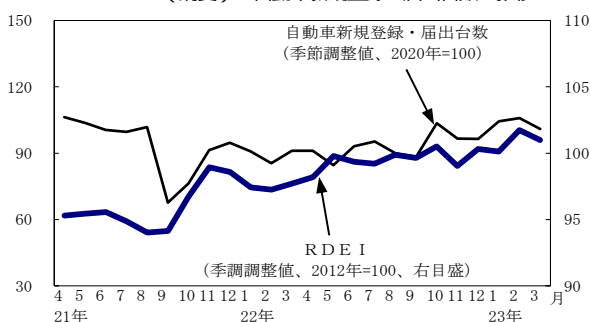
百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、経済産業省の関東(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡)の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比 (%))

RDEI (消費)と自動車新規登録・届出台数の推移

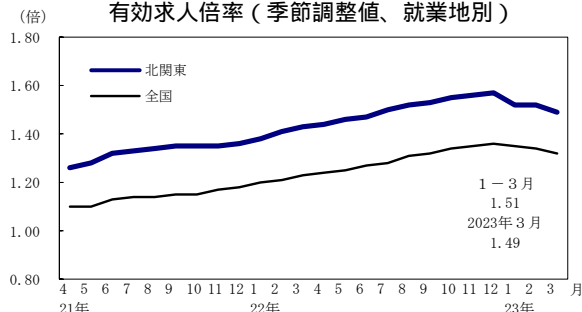


## 3. 雇用情勢

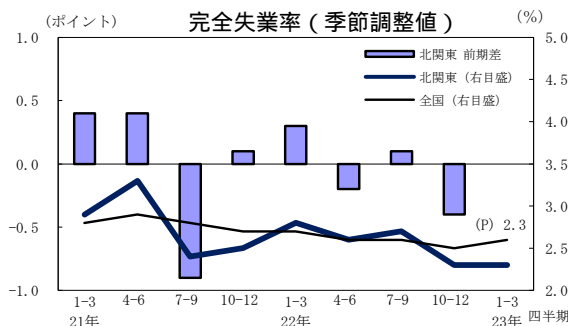
雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期と同水準となっている。

有効求人倍率 (季節調整値、就業地別)



完全失業率 (季節調整値)



(備考) 1. 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

2. 1-3月期の値は暫定値。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和5年4月調査）景気判断理由の概要

3. 北関東

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・4月上旬は、新型コロナウイルスの新規感染者数も少なくなりつつあったが、後半に入り、また少しずつ増え始めてきているようで、心配している。歓迎会等は、1次会で解散し、2次会等などもなく、21時頃までがピークで、深夜の客がいない。売上は10%程度増えている。まだ景気が良くなるには程遠い気がする（タクシー運転手）。
		○	・4月に入り、前年同月比の売上は伸長している。各商品群の値上げ傾向に、消費者が慣れつつある上に、安定した天候も春の園芸やレジャー用品の売上を助長している。明らかに人流が多くなっている（住関連専門店）。
		▲	・社員食堂等の事業所給食では、コスト全般の上昇が先行している。これまで交渉を続けてきた、新年度からの取引条件見直しにより、どの程度収支がばん回できるかが重要となっている。コストアップが大きいことから、100%カバーするのは難しいと想定される（その他飲食 [給食・レストラン]）。
	企業動向関連	□	・飲食店等が閉店する一方で、新店も同程度あり、良くも悪くもない状況となっている（広告代理店）。
		○	・コロナ禍による社会の諸活動及び人心面への影響が、急速に縮小している。また、行楽シーズンの到来とともに、人々の外出行動や消費活動は活発になりつつある。企業の生産活動もコロナ禍前の水準に戻り、設備投資も積極的になってきている（経営コンサルタント）。
		▲	・取引先からの受注状況が悪化している（金属製品製造業）。
雇用関連	○	・ほとんどの主要産業で求人数が増加している（職業安定所）。	
	◎	・現時点での求人数が、前年度比1.3倍になっている（学校 [専門学校]）。	
	▲	・正社員に採用されなかった人が派遣求人に応募してくるが、正社員も派遣も高いスキルが求められている上に採用数が少ないため、厳しい状況が継続している（人材派遣会社）。	
その他の特徴コメント			◎：新型コロナウイルス新規感染者数も落ち着きを見せており、特に、外国人の来訪者数が顕著に伸びている。街中の動き、特に飲食店関係は活性化している（旅行代理店）。 ○：車両販売台数が増加し、受注は増加している（乗用車販売店）。
分野		判断	判断の理由
先行き	家計動向関連	□	・新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類へ移行して、外出機会の拡大が予想されるものの、物価高騰等の懸念材料は依然として解消されないため、向こう数か月では景況回復には至らない（百貨店）。
		○	・ゴールデンウィーク後の経過にもよるが、夏季のイベント等の実施も早々に決まっいて、人流が後退する要因は少ない（一般レストラン [居酒屋]）。
	企業動向関連	○	・期待を込めて良くなって欲しいし、インバウンドの増加に伴って、物が動くことで製造業にもプラスになると思われる（一般機械器具製造業）。
		□	・諸物価高騰分の価格転嫁が進んでおらず、交渉はしているものの、取引内容の減少など相対的に現状維持の利益を出すのがやっとの見込みである（不動産業）。
	雇用関連	○	・求人数は増えているものの、求職者が少ない。今月に入ってからは、求職者も少し増えてきているので、やや良くなる（人材派遣会社）。
その他の特徴コメント			○：気温が高くなれば、客足も伸び、売上も上がると予想される（コンビニ）。 □：アフターコロナで、生活形態が様変わりしており、冠婚葬祭は簡素化している。美容師への髪結いや着付けのニーズもなくなりつつある。この低下傾向に、先の回復は見込めない（美容室）。

(D I) 現状・先行き判断D I（北関東）の推移（季節調整値）

